

病院図書室の業務分析（１）

-担当者の専門性は活かされているか-

寺澤裕子¹⁾、山室眞知子²⁾、中村友紀³⁾

¹⁾関西労災病院図書室、²⁾京都南病院図書室、³⁾星ヶ丘厚生年金病院図書室

近年の医療制度改革により病院の運営は厳しい様相を呈し、それに伴って病院図書室の運営方法や担当者の雇用形態も派遣やパート職員が主となり厳しい条件下にあるが、司書資格を有する者が増加している。しかしながら司書として、また病院図書室担当者としての専門性が病院管理者層に認識されているのだろうか、また日常業務の中でその専門性が活かされているのか、活かされていないのであればそれを制約している因子は何かを考察するために、われわれは図書室担当者の業務と業務量の調査・分析を行うことにした。本研究は平成 17 年度近畿病院図書室協議会研究事業助成金を受けて 2 年間にわたり行うもので、今回はその中間報告として、アンケート調査結果を次のようにまとめる。

近畿病院図書室協議会では毎年会員へ年度統計調査と、隔年で管理機能・サービス機能面からみた詳細な年次統計調査を行っている。このうち平成 15 年度調査時に回答のあった 81 機関を対象にして今回のアンケート調査を行い、うち 63 機関の協力を得た。このアンケート結果を、前述した年度統計調査 5 年分とその間 2 回行われた年次統計調査を背景にして分析し、今後も継続して追跡調査を行う。

医学図書館司書という資格はないが、文部科学省の出す「司書の主な職務内容」6 点¹⁾に添って病院図書室担当者の業務を検討しその専門性についても示したい。

1) 文部科学省ホームページ 司書について-3. 図書館職員になるためには
http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/gakugei/shisyo/index.htm#01[2006.5.19]